

529ヘクタールの水源の森からのホットな情報発信

やどりき水源林ニュース



発行 (公財) かながわトラストみどり財団 編集 (認定NPO 法人) かながわ森林インストラクターの会
 〒220-0073 横浜市西区岡野2-12-20 神奈川県横浜西合同庁舎内
 ☎045-412-2255 URL: <https://www.ktm.or.jp> E-mail: midori@ktm.or.jp

やどりき水源林森の案内人(定期観察会のお知らせ) (費用等負担はありません)

毎週土曜・日曜の午前10時と午後1時から「NPO 法人かながわ森林インストラクターの会」会員が水源林をご案内します。
 やどりき水源林ゲート前までお越しください。なお、冬季(12月・1月・2月)は安全確保のため休止します。

お気に入りの場所に座って静かに景色の色の数を数えるあそびがあります。森林セラピーでは座観といわれ、ここを落ち着ける手法の一つです。色合いには様々ありますが、伝統的に日本語は「みどり」を表現する言葉がとても多く、日本語でみどりを数えるだけで森の豊かさにここをゆだねることができます。6月の緑あふれる水源林で、お試しになりませんか？



なつむし色したるもすずしげなり

枕草子 281 段



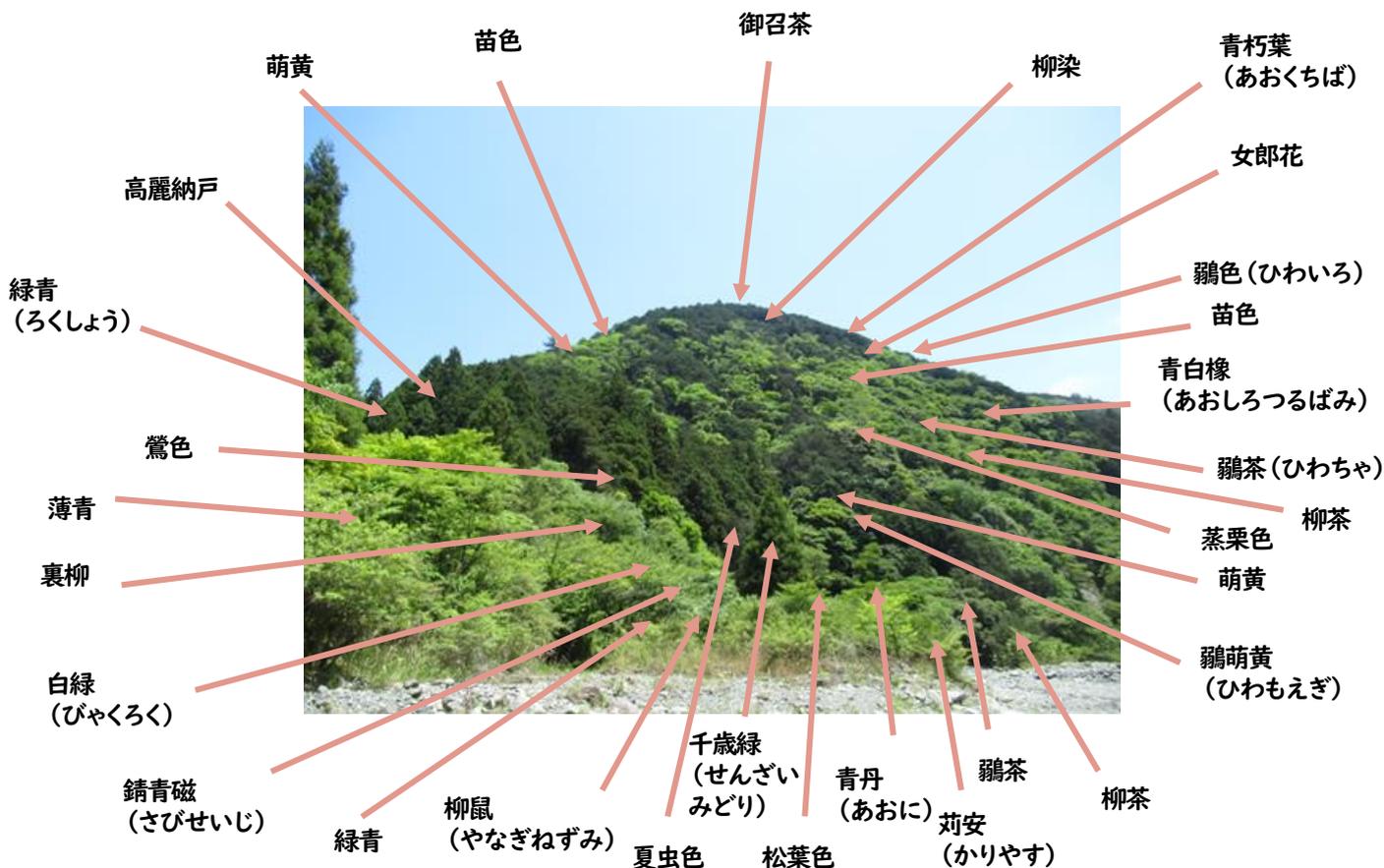
上の写真はやどりき水源林林道コース脇の寄沢の河原から、鍋割山表尾根の櫟山(くぬぎやま)を眺めています。いくつの緑があるでしょうか。枕草子で清少納言が男性の夏の袴にぴったり、と書いた「なつむし色」は、「青みの暗い緑」のことですが、どのあたりがこの色にあたるでしょう。それぞれの感覚で考えたり、お友達と話し合ったり、楽しいものです。

古い日本語でやってみましょう。
 例えば左のホソバテンナンショウ、葉っぱは万葉集にもある萌黄色、茎の斑点は西鶴が愛した鶯茶(うぐいすちゃ)、仏炎苞(ぶつえんほう)のつけ根は源氏物語にもある若苗色、先の方は最も高貴な白練(しろねり)。



ちなみに、今月号担当がこの景色を 2 時間眺めて数えたみどりは 25 色。

<参考> 「新版日本の伝統色:その色名と色調」長崎盛輝 2006 年 京都 青幻社



もちろん、このあそびに正解はありません。感じ方は人それぞれです。同じ人・景色でも何時どこに座るかで光の具合が異なり、違う色に見えたりもするでしょう。試してみたい方は、[←のリンクをクリックしてみてください。](#)3 分ほどの動画でこの写真の同じアングルから櫟山を眺めています。鳥のさえずり、風の音、緑、緑、・・・バーチャル座観はいかが？



美しいジャケツイバラ。伝統色の定義では黄蘗(きはだ)でしょうか？



華やかなヤマツツジ。甚三紅(じんざもみ)色。この色名が生まれたのは時代も下った江戸時代。染色では難しい色なのかも。



清楚なマルバウツギ。枕草子では晩春から初夏の花としてウツギが挙げられていますが、当時はこの季節に咲く枝が中空の白い花はすべてウツギと呼ばれていた、という説もあり、マルバウツギを清少納言は見ていたかもしれません。

7 月の水源林のハイライト

前半は梅雨のおわり。ゲリラ豪雨もあるかもしれません。やどりき沢の急激な増水にご注意を。後半はいよいよ夏休みです。森の案内人はやどりき沢のいきものの観察をお手伝いします。お気軽にお声をおかけください。



寄沢で見つけたフタスジモンカゲロウ。水のきれいなところにしか住めません。